

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年6月13日】第127号



英語の学習

本校では入学式の翌日から毎日、1コマ45分の英語の授業があります。月曜日であれば、1時間目は2年生、2時間目は3年生、3時間目は1年生、4時間目は4年生の英語の時間です。英語で音読する声や、歌を歌う子どもたちの声が聞こえてきます。また、2年生以上では、ディクテーションなども行っており、英語講師の言うフレーズを聞きとり、それをノートに書いていく学習もすすんでいます。毎日のことですから、授業に取り組む姿勢によって、力に差が付いてくることがあります。できないことを恥ずかしく思ったり、あきらめてしまったりすると、そこから先が難しくなります。どのような科目でも同じですが、簡単にできるところまで立ち返って復習する気持ちと努力が大切です。一方、英語が得意な子どもたちには、英語講師の話をじっくりと聞く、ただ早く答えるのではなく正しく丁寧に答える、ほかの子どもたちの発言にも耳を傾けるなどの姿勢が大切だと伝えていきます。4名の英語講師も皆、子どもたちの英語の力が、しっかり伸びていくのを応援しています。

服装を整える

子どもたちは毎朝、夏の制服・制帽・製靴に身を包んで登校してきます。きちんとした服装をすることにより、気持ちも整うと考えています。農大稲花小の一員であるという自覚も高まるでしょう。しかし制帽を忘れてくる子どもがいないわけではありません。白いシャツの袖口が汚れたままになっている子どももいます。暑い季節に向かう今、調髪が不十分な子どももいます。体育の授業では服装が整っていないければ、安全な体育ができないと考え、見学とする措置を取っています。

小学生の子どもたちはまだ、自分の身支度を一人で完全に整えるのは難しいのです。「いっていらっしやい」の一言だけでなく、子どもたちの服装や持ち物もどうぞご確認ください。もちろん、子どもたちの瞳が輝いているかどうか、これは一番大切なことです。教職員ももちろん、服装や持ち物だけでなく、子どもたちの瞳の輝きを確かめながら正門や教室で出迎え、また、教室や正門から送り出しています。

横断歩道を渡ろう

6月8日(水)、1年生の子どもたちは、世田谷署からいらした3人の警察官による交通安全教室に参加しました。グラウンドに並んだ子どもたちは、道路を歩くときや渡るときに気をつけるべきことについて教えていただき、グラウンドに設置した横断歩道を渡る練習もしました。

通学において、点滅をはじめた青信号を走って渡ったり、斜め横断をしたり、歩道いっぱい広がって歩いたり、と危ない行動が見られます。大人に注意される前に、子どもたちが自分で安全を確保できるようになることが最終のゴールです。とはいえ、子どもの理解力が不十分である間は、保護者も教職員も、子どもたちを見守り、注意をしなくてはなりません。1年生の子どもたちも交通安全教室を思い出して、安全な通学を心がけてほしいものです。



田んぼの観察

6月9日(木)、農大稲花小の2年生は田奈の田んぼに行き、東京農業大学農芸化学科准教授加藤拓先生のご指導により、田んぼの土、稲の分けつ、そしてカエルやホウネンエビの観察などをしました。田んぼの土は、底を切り取ったペットボトルで作るモノリス(土壌標本)で観察します。モノリスを上手に作って見せるというのは、専門家です。農芸化学科大学院生4名にも手伝っていただきながら、子どもたちはグループごとに、田んぼの勉強をしました。



1年生が田植えをした田んぼを歩いて一周すると、稲の生長がよくわかります。カエルが飛び跳ねるのも見ることができました。子どもたちの注意深い眼は、様々な発見をしたようです。

雑草パワーを学ぶ

6月20日(金)、1年生は東京農業大学国際食農科学科宮浦理恵教授に雑草のパワーについて授業をしていただきました。まず、校内の雑草を見たり、スギナの茎を節の所で抜いてからもとに戻し、抜いた場所をあてる遊びをしたりしました。また、薬として利用されるドクダミの話を聞き、人々が雑草を様々な活用してきたことを教えていただきました。続けて、シロツメクサとカタバミを比べた後、カタバミの酸を利用して錆びた十円玉をピカピカにする実験もしました。私たちが食べる農作物も、栽培されるようになる前は雑草でした。普段はあまり気に留めない雑草ですが、そのパワーに気づかされた授業でした。

カラフルザリガニ できるかな

6月10日(金)、3年生は東京農業大学教職課程武田晃治教授にカラフルザリガニについて授業をしていただきました。ザリガニってなんだろう、これからザリガニを活用するにはどうしたらいいのか、武田先生のお話に引き込まれて子どもたちです。科学教育教材用に作出された白色のザリガニ、これにカロテノイド色素を加えて赤色や黄色にした飼料を与えるのが実験です。子どもたちは、大学院生のサポートも受けながら、乳鉢や乳棒を使って赤色や黄色の飼料づくりをしました。これから、この飼料を与えて、ザリガニの色の変化を観察していきます。もちろん、餌やりだけでなく、水の管理なども子どもたちがやらなくてはなりません。色素の組み合わせでは、もっと様々な色のザリガニを作ることができるそうですが、まずは、きちんとした管理と観察からです。来週、カラフルザリガニの第2回目が行われます。楽しみですね。

小菅村宿泊学習に向けて

6月9日(金)夕方、4年生の保護者向けに、「小菅村宿泊学習説明会」をオンラインで行いました。山梨県小菅村と東京農業大学のご縁を説明したあと、現地でお世話になる多摩川源流大学(NPO法人多摩源流こすげ)事務局長石坂真悟様と山下春奈様にその活動や、予定している源流体験についてご紹介いただきました。その後、宿泊学習における新型コロナウイルス感染防止措置、日程や持ち物、そのほかの注意事項について説明をいたしました。

詳しい日程や持ち物は、後日配布・配信される「しおり」をご覧ください。ことになりませんが、宿泊学習は木工体験や源流体験を楽しく行うだけでなく、本校の「10の能力」にも掲げられている様々な力が身に付いているか、問われる場でもあります。事前学習を積み重ね、宿泊学習の目的を理解して臨んでほしいと願っています。



小菅村(画像提供：NPO 法人多摩源流こすげ 様)



多摩源流大学HP : <https://genryudai.jp/>

校長 夏秋 啓子